

## < 2019 年度の活動報告 >

### ○ ユースリサーチプロジェクト in 久米島

- ・日時 2019年4月19日(金)～21日(日)
- ・会場 沖縄県島尻郡久米島町久米島ホテル館／ニブチの森

沖縄本島の西約 100km に浮かぶ島・久米島。沖縄県内で 5 番目に大きな島です。久米島は沖縄本島と共通する生物も多く生息しているものの、キクザトサワヘビ、クメジマボタルなど久米島にしかない固有種も多く生息しています。特にキクザトサワヘビは日本で唯一淡水性のヘビで、ヘビが生息する宇江城岳の溪流と周辺の湿地 255ha が「久米島の溪流・湿地」としてラムサール条約に登録されています。今回のユースリサーチプロジェクトでは、「久米島町」と「久米島ホテル館」協力の下、ラムサール条約登録湿地にある「ニブチの森」を訪問したほか、久米島ホテル館周辺で「サウンドマップ作り」を行いました。さらに同日程で開催された「全国ホテル会議」を劇団シンデレラのメンバーと見学しました。



ニブチの森の観察

### 【参加者レポート】

#### <久米島のホテルについて>

久米島には様々な種類のホテルが生息しており、このエリア固有種のクロイワボタル、オキナワスジボタル、そして久米島のみにも生息する天然記念物クメジマボタルを、久米島ホテル館のご案内で見ることができました。外灯の無いホテル館の周辺は懐中電灯を消すと辺り一面真っ暗。少しだけ目が慣れた頃、暗闇の中でふわ～っとホテルが光り、それはそれは綺麗でした。

#### <サウンドマップについて>

今回の活動にて初めて取り組んだ「サウンドマップ」。その名の通り、音をテーマに地図を作るアクティビティです。ホテル館の周辺で各々好きな場所を探し、取り組みました。木道の途中で立ち止まって音を拾い始めると、お客さんたちの笑い声や車の音などが右側から響き、頭の上や背後で鳥の声がひと際目立ちます。雨が降り出したため、傘に落ちる雨音も綺麗でした。目を閉じて耳を澄ませていると、カエルの鳴き声や、魚が跳ねたような水の音もしてきます。これらを自分なりに白紙に落とす作業をしたのち発表し合いましたが、音の種類を色で分けたり、文字で大きさや聞こえてきた場所を表現したりと、豊かな発想が沢山見られて面白かったです。お天気が違えば、同じ場所でも全く新しいマップになるでしょうし、「匂い」など他の五感を使っても楽しそうです。十人十色の地図ができる、発見の多いアクティビティだと感じました。



劇団シンデレラの公演

## ○ Youth Engaged in Wetlands(YEW) リーダーズミーティング 2019

- ・日時 2019年6月24日～28日
- ・会場 スイス・グラン「ラムサール条約事務局」

2018年10月にドバイで行われた第13回ラムサール条約締約国会議にて、新たなユース世代によるグループ「Youth Engaged in Wetlands」が生まれました。しかし具体的な活動は決まっていなかったことから、ユースラムサールジャパンは経団連自然保護基金に YEW の立ち上げと次の締約国会議へ向けた活動のために助成金を申請し、3年計画で採択されました。

2019年度はスイスのグランで行われた「常任委員会（SC）」という政府代表が集まる会議に合わせて、6月24日～28日に YEW リーダーズミーティングを行いました。次の締約国会議の開催地の決定や締約国会議のコンセプトが話し合われる重要な会議です。YEW のリーダーであるエリスさんと YRJ から佐藤琢磨さん、田辺篤志さんが参加しました。

YEW の活動をアピールするため、SC に参加した各国政府代表と条約事務局職員、NGO 関係者に向けてラムサール条約の公用語である英語、フランス語、スペイン語、アラビア語の4カ国に YEW メンバーが翻訳した YEW のパンフレットを配布するとともに、次回の締約国会議のコンセプトを「ユース」にしてほしいというお願いを行いました。パンフレットの配布を通して、各国の政府代表とコミュニケーションを積極的に行い、YEW の活動を応援してくれる政府代表とコネクションを作ることができました。

常任委員会の会議では、中国が開催ホスト国となり、中部の都市「武漢」が開催地となることが発表されました。また、開催テーマ案が4つ（Water, Youth, Future responsibility, Value）示され、なんと「Youth」も候補として入りました。コーヒープレイクなどの時間を使って積極的なアピールを行なった成果が形として現れ、Youth がテーマとなる会議が実現するよう今後も積極的に活動に取り組んでいく予定です。



常任委員会の会議の様子



ラムサール条約事務局の事務局長マルタさん（左から2番目）と撮影



日本の政府代表との記念撮影

## ○ KODOMO 湿地交流会 in 藤前干潟 ～藤前干潟の自然を体感しよう！～

- ・日時 2019年10月13日(日)～14日(月)
- ・会場 愛知県名古屋市藤前干潟／藤前活動センター／稲永ビジターセンター／愛知県武道館

10月13日、14日の2日間。藤前干潟で活動する「ガタレンジャーJr.」と琵琶湖で活動する「TANAKAMI ども環境クラブ」の子どもたちによる交流会が開催されました。



石ころ干潟観察中



ヨシ原観察中

初日は、藤前活動センターに集合後、午前中は開会式とアイスブレイク、藤前干潟についての講義、石ころ干潟の観察と採取した生きものの観察が行われ、午後からは、稲永ビジターセンターに移動して、ヨシ原についての講義とヨシ原観察、採取した生きものの観察を実施しました。夜は宿泊先である愛知県武道館の会議室で「壁新聞作り」を行いました。聞いた話や石ころ干潟、ヨシ原で観察したことを元に、3グループに分かれて記事をまとめていきました。



グループごとに壁新聞作り

2日目は、朝から藤前活動センターに移動して壁新聞作りの続きを行いました。完成後、各班が作った壁新聞を発表しあい、最後に閉会式と記念撮影を行って終了しました。

出来上がった壁新聞には、同じものを見ていても個々で捉え方に違いがありました。例えば漂着ゴミに対する感覚の違い。少ないと感じる子どももいれば多いと感じる子どももいるなどなど、湿地体験で感じる部分の違いが見られ、面白いところでした。

この壁新聞は、現在、藤前干潟の藤前活動センターに展示してあります。機会がありましたら、ぜひお越しください。



完成した壁新聞の前で記念撮影



## ○ Youth Engaged in Wetlands Meeting 2019 in Japan

- ・日時 2020年1月17日（金）～21日（日）
- ・会場 東京 神田・浅草／谷津干潟

1月17日～21日の日程でCOP13後、初めてYEWメンバーが集まり東京で会議を行いました。次回の締約国会議までどのような戦略を立てて活動を行っていくのか？ユースがラムサール条約にどのような影響をあたえられるのか？など、様々な議論を行いメンバー同士意見を深め合う機会となりました。YEWメンバーとしてフィリピン、カナダ、インド、フランス、オーストラリア、ブラジル、日本の7カ国で活動しているユースが日本にやってきました。



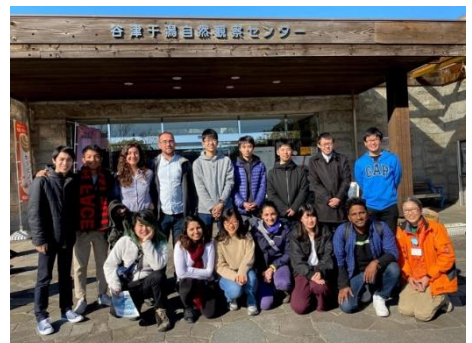
7カ国7名が一堂に会しました

1日目には、環境省自然環境局野生生物課湿地保全専門官の市川智子さん、ラムサールネットワークジャパンの柏木実さんをゲストにお呼びし講演が行われました。市川さんからは日本の湿地の現状と環境省の取り組みについて話があり、柏木さんからは自身の活動の歴史とCOP10で決まった「水田決議」を作成したときの話がありました。海外のYEWメンバーは日本にある湿地の多彩さとCEPA事業の取り組みの多様さに驚いたようでした。



ウェルカムレセプションとして名古屋料理を味わいました

2日目は「ユースはラムサール条約になにを貢献できるのか」について議論しました。YEWメンバーは、それぞれが住んでいる地域を担当しながら、4つのワーキンググループに分かれて活動しています。そのため、各ワーキンググループで話し合われたことを共有したほか、YEWを知ってもらうためにどのような活動をするべきか？法人格を取得するべきか？資金繰りをどのようにするか？世界湿地の日にはどのような活動を行うか？など、様々なトピックで話し合いました。



谷津干潟ユースと記念撮影

3日目の午前中はYEWメンバーに日本の湿地を知ってもらうため、フィールドトリップを行いました。今回はCEPA活動を盛んに行なっている千葉県習志野市にある「谷津干潟」を訪問しました。当日は谷津干潟ジュニアレンジャーと谷津干潟ユースの両方グループが活動を行っている日で、谷津干潟ユースやジュニアレンジャーの子どもたちがどのような活動を行っているか実際に見ることができました。午後からは、引き続き会議を行いました。国際ユース生物多様性条約ネットワーク（GYBN）の共同代表であるMelinaさんとスカイプ電話を繋ぎ、生物多様性条約に関わるユースがどのような活動を行っているのか？どのような目的を持って活動しているのか？などの話を聞きました。2020年はBiodiversity Super Yearであり、中国で締約国会議が行われます。生物多様性条約のユースは、2010年に名古屋で行われた生物多様性会議COP10で発足し、今年で10周年を迎え、長年活動してきたことから、ラムサール条約のユースも多く学べる部分がありました。

最終日の4日目は、国際湿地保全連合（WIJ）の長倉恵美子さんをゲストにお呼びし、日本でWIJがどのような活動を行っているか、長倉さんが国際会議に参加した経験からユースはどんなことに貢献できるかアドバイスをいただきました。そして会議の終盤には、設立後からの1年の活動をベースに次の締約国会議につなげるための戦略を話し合いました。ユースから決議草案（締約国が話し合う議題）を提出することや、ネットワークグループではなく組織として自立していくことについて合意されました。



最終日まで議論は白熱しました

最後には「Youth Declaration 2020」としてユース宣言を行い、

今後の行動指針を作成しました。これは決議草案にもつながるもので夜遅くまで議論が続きました。

今回、直接顔を合わせて会議を行うことで、国や文化が違うメンバーそれぞれの想いや意見をすりあわせることができました。なにより、お互いに世界中バラバラでも若い力で湿地を盛り上げていく仲間なのだということを再確認することができ、充実した会議となりました。

## ユースラムサールジャパン 2020年度 活動予定

内容	詳細
ユースラムサールジャパンの自主活動	現在、助成金への申請を含めて活動方針を検討中です。具体的な活動については後日、おしらせいたします。
アジア湿地シンポジウムへの参加	韓国・順天市で開催されるアジア湿地シンポジウム 2020(コロナウィルスの影響で開催日未定)への参加
世界湿地の日の企画	世界湿地の日に向けたイベント・企画を計画しています。
YEW を通したユースラムサールジャパンの活動	
ユースによる湿地保全活動の事例収集	ユースによる湿地保全活動の事例を収集し、ホームページやSNSで発信する。日本の事例収集はユースが担当します。
YEW のコアメンバー会議への参加	IUCN 世界会議が開催されるフランス・マルセイユで実施予定
ラムサール条約常任委員会への参加	スイス・グランで開催されるラムサール条約常任委員会に継続的に参加
YEW 草案会議への参加	アジア湿地シンポジウム 2020 と同時開催
世界湿地の日企画	世界湿地の日の世界のユース世代を巻き込んだ企画を、インターネットなどを用いて実施
ラムサール条約のプレ COP14 地域会合	ラムサール条約のプレ COP14 地域会合に参加

※詳しい開催日程、内容については、また後日、お知らせします。

## ☆ サポートありがとうございます！ ☆

○会員の皆さま

2020 年度も引き続き、会員継続をお願いします。年会費は 2,000 円となります。

○サポーターの皆さま

2019 年度は以下の皆さまからサポートをいただきました。

川嶋宗継 劇団シンデレラ 佐藤湧馬 ダグラスS ジャレル 千頭聡  
(順不同・敬称略)

2020 年度も、引き続きのご支援ほど、よろしく願いいたします。

○会費、サポーター費共に、同封の郵便振込用紙にてお振り込みください。

## YRJ 通信 VOL. 8 発行：2020年5月17日

### ユースラムサールジャパン

事務局 〒453-0855 名古屋市中村区烏森町 8-709 ラポール烏森 A-203

TEL/FAX 052-446-8489

E-mail [youth.ramsar.japan2015@gmail.com](mailto:youth.ramsar.japan2015@gmail.com)

URL <http://youth-ramsar-japan.iimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/youthramsarjapan>

郵便振替：12120-8020247 ユースラムサールジャパン

☆会員、サポーターを随時、募集しております！詳しくは上記までお問い合わせください。

2019 年度のユースラムサールジャパンの活動は

**「経団連自然保護基金」**

**「子どもゆめ基金」**

の助成により実施しました。